

田尻町教育センター NEWS

発行：田尻町教育委員会 第2号 令和3年10月

保幼小中一貫教育校の種類と形態について

前回は、「15年間の連続する学び」を実現するため、保幼小中一貫教育をめざす「ねらい」について紹介しました。実際には、どのような学校なのかは具体的にイメージしづらいと思い、今回は一貫教育校のタイプについて説明していきたいと思います。（保幼小中一貫教育校は、現在のところ、極端に少ないため、小中一貫教育校で考えていきます。）

①義務教育学校

義務教育期間の9年間で1つの学校において、教育する学校です。1人の学校長のもと、1つの教職員組織で、小・中の区分なく教育課程を編成した教育活動を行います。例えば、小1～4年を前期課程、小5～中1を中期課程、中2～3を後期課程などとしての編成もできます。まさしく1つの学校のイメージです。近年は、開校する自治体も増加しているようです。

②併設型小中一貫教育学校（中学校併設型小学校・小学校併設型中学校）

これまでにある小学校・中学校の基本的な枠組みを残したまま、義務教育学校に準じた形で9年間の教育目標を設定して系統性を確保した教育課程を編成・実施していく学校です。同一の設置者によるものです。小学校と中学校には、それぞれの学校長と職員組織があります。併設型一貫教育校は、数的には最も多く設置されています。

③連携型小中一貫教育学校

タイプとしては併設型小中一貫教育校と大きく変わりはありません。最も大きな違いは、学校設置者が異なるということです。例えば、公立小学校と私立中学校による一貫教育学校等です。このようなタイプは実際には少なく、本町においては成り立たないといえます。

次に、小中一貫教育校の施設形態について説明します。学校施設の形態も大きく3つのタイプに分けることができます。

A:施設一体型

児童・生徒が同一の校舎内において、教育施設を共有していきます。そうすることで、連携を高めていくことができます。

B:施設隣接型

隣接した校舎で、それぞれ教育活動がおこなわれますが、もちろん、一貫した教育課程や学校行事等は、合同で実施されます。

C:施設分離型

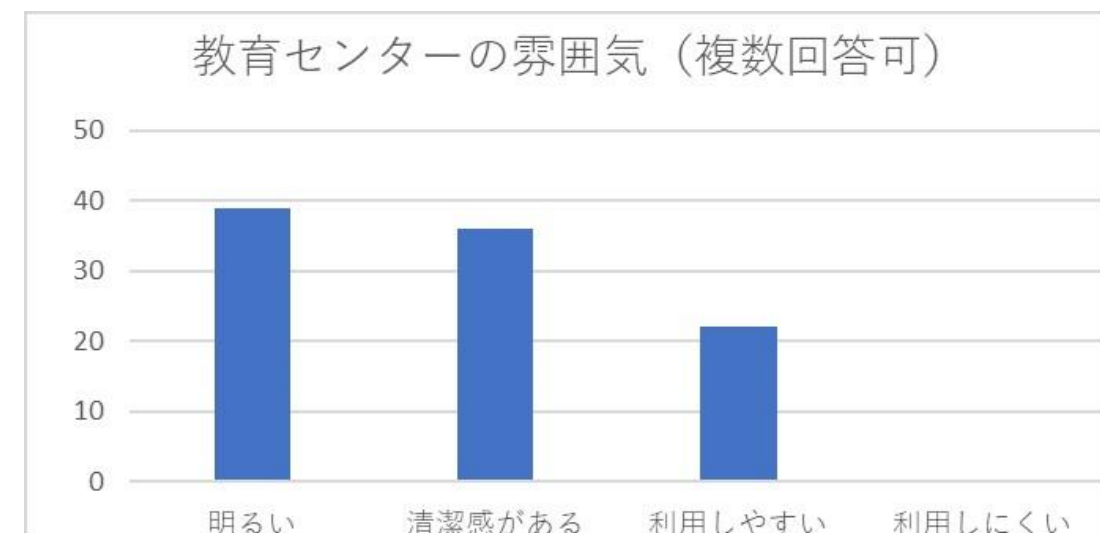
小学校・中学校のある場所は、離れています。しかし、教育目標や教育課程は一貫し、しっかりした連携のもとで教育活動を展開していきます。

以上の、種類①～③およびA～Cの組み合わせによって、小中一貫教育校には、いくつかの形態があります。本町においては、さらに保育所・幼稚園を合わせてイメージして、検討を進めているところです。

教育センター見学会への参加ありがとうございました

9月6日から9月16日の期間で教育センターの見学会を実施しました。

49名の方に参加していただき、見学会だけでなく、子どもたちがどのような学習を行っているのかを体験していただきました。



参加していただいた方にはアンケートにご協力をいただき、上記のグラフ以外にも次のようなご意見をいただきました。

- ・「コロナ禍で難しいと思うが、地域との交流は大事」という意見が何人もありました。また、ホームページをいつもチェックしていただいております。「よりオープンに」との意見や、「(地域コーディネーター等の)人材育成が大事」、「地域への積極的な情報発信」、「役場と学校との連携（が大事）」といった意見もありました。
- ・「教育センターができて良かった」という意見や、「説明会へのお礼」のほか、「教育センターの活用について、今後とも学校現場との連携のもと取り組んでいってください」といった意見や、「いざという時だけではなく、普段からリモート授業を受ける機会を持ち、いざという時には、子どもも親も学校も即対応できるようにしてほしいです」といった意見がありました。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。皆様のご意見を今後の教育行政推進の参考とさせていただきます。